

平成24年度 冬号（第6号）

東京都へき地医療支援機構通信

【編集・発行】

東京都へき地医療支援機構

（東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課医療振興係内）

東京都へき地医療支援機構無料職業紹介 事業所からのお知らせ

東京都へき地医療支援機構無料職業紹介事業所では、へき地医療機関での勤務を希望する方に対し、就職の相談・斡旋・紹介等を行っています。取扱職種は、医師、歯科医師、薬剤師、（准）看護師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、歯科衛生士、歯科技工士、臨床工学技士、栄養士です。

また、現在へき地町村の医療機関に勤務している医師が研修・休暇等で勤務地を一時的に離れる場合に、臨時で代替勤務をする代診医も随時募集しています。

地域医療に興味がある方、島しょ・山間地域で生活しながら仕事をしてみたい方、これまでの勤務経験をへき地で活かしたい方など、へき地医療機関での勤務にご興味がある方はぜひお問い合わせください。

へき地医療機関紹介

東京都のへき地医療の現状について、もっと知っていただくため、今号からへき地医療機関紹介を行います。第1回目は、三宅村国民健康保険直営中央診療所です。

三宅村国民健康保険直営中央診療所は、三宅島の唯一の医療機関であり、医師3名のほか、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師のスタッフで構成されます。



平日は午前9時から外来診療・検査を行い、午後は特殊外来や往診、外科処置、健診などを行っています。

一般病床も有し、必要な患者は入院対応で治療に当たっています。救急患者が発生した場合は、迅速に随時対応。重症患者の場合は、ヘリコプターで内地に搬送します。土曜日も24時間体制で救急患者の対応を行っています。眼科、呼吸器科、産婦人科、小児科、精神科等は年に数回、外部医療機関が来島し、専門医による診療が行われます。

<三宅島ってどんなところ？>

三宅島は人口 2700 人程、東京から南南西に約 180km の位置にあります。別名バードアイランドといわれるほど野鳥の多い島の楽園で、アカコッコを初め国の天然記念物となる野鳥も数種見ることが出来ます。海と山に囲まれた風光明媚な土地で、磯釣り、船釣り、ダイビングや自然散策などを楽しむことも。火山島なので、過去の噴火によるマグマの流出で埋まってしまった街や神社の鳥居、噴火による水蒸気爆発で干上がってしまった湖などもあり、自然災害や災害医療について考えるきっかけとなるかもしれません。最近では 2000 年に噴火があり、5 年間全島民が避難していましたが、現在は多くの住民が戻っています。三宅島観光協会 <http://www.miyakejima.gr.jp/>

【三宅村より医療関係者の皆様へ】

医療関係者の皆さま、こんにちは。三宅島は太平洋に浮かぶ伊豆諸島のほぼ真ん中にある円形の島で、紺碧の海と常緑の大地、雄山からは白い噴煙、島のあらゆるところで火山の島を体験できます。2000年の噴火以前には、年間約 10 万人の観光客が訪れていましたが、現在では半分以下の約 4 万人となりました。しかし、夏季シーズンには人口が倍になるくらい賑やかで、特に 2 年に 1 度の富賀神社祭（ケンカマツリ）のある年は帰省者も多く大変賑います。噴火後、村の人口は約 1,000 人減少し約 2800 人に、高齢化率も 36%強ですが、出生者数は年平均で 10 人と多くはありませんが少しずつ増えてきているので、将来が楽しみです。

島で唯一の診療所では医師 3 名で、多くの慢性疾患や急性疾患を、多い日には約 60 人を診療しております。医療従事者は島外出身者が多いので、興味のある方は是非ご連絡ください。また、村では平成 25 年度中に人工透析医療の導入を計画しているため、透析経験のある医師、看護師を必要としております。是非皆さまのお力を貸してください。よろしく願いいたします。

（三宅村国保直営中央診療所事務長）

現在、三宅村では医師、看護師、薬剤師を募集しています！
興味のある方は、東京都へき地医療支援機構無料職業紹介事業所までお問い合わせください。



☎へき地町村で働く医療従事者の方にインタビューしました☎



堀田さん、お忙しい中、快く取材に応じていただき、ありがとうございました。



看護師 堀田 ^{かおる} 薫子さん

(東京都職員派遣・新島村国民健康保険式根島診療所)



島で勤務するようになったきっかけは？

もともと介護の仕事をしており、島しょ医療・地域看護をしたいという希望をもっていました。そこで看護師を目指し、大学時代には新潟県の粟島に遊びに行ったこともあります。

都立広尾病院は、島に関わりのある病院なので勤めていました。そこでたまたま異動先として島を希望したところ、希望がかなって今に至ります。

勤務先を簡単に紹介してください

診療所は、港から歩いて10分くらいです。患者さんは、乳幼児から高齢者まで様々な方々が1日20人程受診されます。医科スタッフは医師1名、看護師2名、受付・事務1名です。歯科スタッフは医師1名、受付・事務1

名で月に2週間の診療があります。人数は少ないですが、その分とても親交があります。

(食事会)



一日の仕事の流れは？

8時半から受付が始まり、診療は9時からです。患者さんがいなくなるまで診療を行います。午後は第2・4木曜日のみ午後診療を行います。それ以外は往診、医療相談、予防接種等を行っています。夜間は看護師2名が交替で診療所から転送される電話を持ち帰り、電話が鳴れば対応する態勢をとっています。週末は、電話を持っていて呼ばれなかったことは数回しかありません。特に夏場の観光客が多い時期は大変です。

現在の職場に勤務して良かったことは？

自分の望んでいた島民の方々の生活習慣も含めた地域看護ができていることがとても嬉しいです。内地ではあくまで病院に来た患者さんに医療的観点からしか関われないですが、島では診療所でなくても顔を合わせることもあり、生活も病気もすべてを「診る」必要があると思います。

最初は困難なこともありましたが、内地では絶対に経験できないことを経験できていると思っています。

現在の職場に勤務して大変だったことは？

経験していない科の症例の患者さんに立ち会ったときは戸惑います。後に振り返って、知り合いの先輩看護師の方に相談したりします。

同じ新島内の本村診療所では研修が開催されているので、そこに参加できれば、交流の機会が増えていいと思います。

休日の過ごし方や島での生活は？

観光客が多い夏のみ開いている店にご飯を食べに行ったり、友達と島内観光や島民の方にクルージングに連れて行ってもらうこともあります。式根島では手に入らないものもあり、新島に買い物に行くこともあります。今は神津島に遊びに行きたいと思っています。

島民の方がとても親身で、自然も多く、心身ともに癒されています。漁師の方が漁でとれたものを戴いたりもします。天候が悪く物資が届かないときは困ります。

へき地医療従事を希望する方へメッセージ

島の診療所は、新生児から高齢者まで様々な疾患に対応する必要があり、苦勞することもあります。内地の病院の勤務環境とは異なり、患者さん一人一人と向き合った時間が確保されています。残業等も内地の病院と比べるととても少なく、充実した日々を過ごせます。

スタッフや医療関係者との連携が強いことも魅力です。看護師も少ないため、頼られる機会も多く、自己を成長させることが多いです。



【診療所スタッフの皆さん・

(堀田看護師は前列中央)】

興味がある方はぜひ診療所を見に来てください。

一緒に地域に密着した医療を提供しましょう。

編集・発行

東京都へき地医療支援機構 (東京都 福祉保健局 医療政策部 救急災害医療課 医療振興係 内)

【電話】03-5320-4428 【Fax】03-5388-1441 【E-mail】S0000299@section.metro.tokyo.jp

【HPアドレス】http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/joho/shokuin/tousyo_bosyu/index.html

☆★ご意見・ご感想をお寄せください★★☆